

戦没者遺族会への聞き取り調査（記録）

林 泉 さん

小林先生：林さん。お願いします。

林さん：私はね生まれたときから現在まで今のところ（長岡京）におりますので、空襲も何も受けてませんので、そういう戦時中の思い出ちゅうのはほとんどないんです。

で、戦死をしたのはね私の親父の弟、あの叔父です。叔父が戦死をしまして。叔父はね、あの海軍でして、あの航空母艦の大鳳という航空母艦に乗っておりました。で、あの中部太平洋で亡くなったんですけど。

小林先生：何年に？

林さん：19年6月です。あの時にアメリカの攻撃を受けて海軍がもう全滅したいうときですね。その時海軍に所属しとった。で、海の中なんですでもちろん遺骨も何も帰ってきてません。

あの光明寺っていうお寺ですけど、光明寺で合同の慰霊祭がありまして。

小林先生：それはいつ。

林さん：それはねちょっと覚えませんが、まだ終戦までです。まで。

ちょうど家から光明寺合同の慰霊祭の場所へ行くときに、B29が高いところね飛行機雲引いて飛んでいったことは記憶にあるんです。編隊を組んでね。

そやから終戦までにその合同慰霊祭があった。何人かまとめてね、まとめてほんでまた何回か繰り返してやって。

ほんで親父はねやっぱり兵隊に行っていました。支那事変です。中国いった。輜重兵で。ほんで馬の世話をしていたゆうことは聞いてます。

小林先生：それで行かれて帰ってこられたのは。

あの帰ってきたのはね、あれ18年やったと思う、18年に帰ってきましたそれまで出征した時は知りませんから、顔もなにもわからへん。

んで、よその家の人にはね親父さんとお袋さんがいんのに、うちだけなんで親父がおらんのかな、小さい時物心ついたときは思てましたけど、18年ごろに帰ってきて、これが親父かゆうことがはじめて分かった、というようなことです。

小林先生：お父さんはもうその後は行かれなかった

林さん：もう行ってません。

で、私ごとですけど、昭和19年に長法寺小学校。その時は長法寺国民学校いいまして、あの、入学しまして、2年生の時にまあ終戦になった。

で、その後食糧難で、グラウンドちゅうか運動場、イモ畑に変わったんですけど。あの、我々もうほとんど勉強もしてません。

それで戦時中のことといいますとね、学校行くのは、靴みたいなん有りませんので草鞋です。草鞋で、帽子は戦闘帽。国防色、戦闘帽、軍隊みたいなかぶって。であの、かばんは今のランドセルやのうて、布のね、こんなつばのついた袋です。それ2つ。こっちの肩、両方にぶらさげてね、片一方は今の防空頭巾や救急やてそなん、片一方は教科書。そうして毎日いったんです。

私の方からは毎日30分ほどかかったんです、子どもの足で歩いてね。

長岡京市の端ですんでね、長法寺小学校行くのに、30分ほど時間かかった。

そやけどもう戦時中ですから空襲警報が鳴って、その前に警戒警報が鳴りますんで警戒警報が鳴りますとねもう学校全部家帰らすんです。んでまた並んで2列縦隊で、あれ2列縦隊必ず必ずね行きました4年生が先頭になっていきましたけど。

小林先生：それは結構回数ありましたか。

林さん：ありました。警戒警報が鳴ったら帰って、ほんであの空襲警報がまた途中で鳴ります、ほんで解除になったらまた学校行く。

小林先生：行くんですか。

林さん：行きますね。んでまた警戒警報なったら、また帰れ。

一日ね多い時で3回くらい行ったり帰ったりしましたね。一回もない時ありましたけどね。だんだんほら終戦近づいてくるとね。

そういう風にして何回も学校往復。片道30分かかるところをそうして行った覚えがあります。

小林先生：学校に忠魂碑は無かったですか。

林さん：あのね奉安殿という、奉安殿。毎日校長先生があれから御真影やら出してきてね、運動場で朝礼がありましたでしょ。校長先生がね

小林先生：あの神足の空襲のことは全然分からない。

林さん：知りません。あの神足っちゅうのは大分はなれてますからね。

なんかね、ばちばちいうていっぺん飛んだことはある。艦載機。艦載機ね小型の飛行機。一回ねばちばちいうて打ちながらね、上を通ったんは記憶にあります。それも終戦間近の時ですわ。うん終戦間近。

で、戦後は食料難ですわね。そやから何もかも配給でしてね。

で、あの、魚やとかそれまでも配給で、お菓子も配給でしたけどね。

魚はあの町内の役員さんがあの町内の分だけ持って帰って、それも同じ魚やないんですよ。そやからね抽選で、うんうん。抽選で。

ほんでサバが当たったりイワシが当たったりまあ言うたらそんなことがあったお菓子もね、私今の乙訓農協のあつこが村役場やったんですわ。

その前で、ほとんどないけども年に何回か配給がありましてね、長いことならんでビスケットみたいな、子どもの手にこんだけちよつとのるくらいもろて、家に帰るまでになくなる。食べたり、そんなようなことでしたね。

小林先生：ありがとうございました。